

ねらい

幼稚園(5歳児):自分たちが楽しんできた遊びを小学生と一緒に楽しむとともに、小学生への親しみを感じる。

小学校(5年生):幼児と一緒に遊ぶことを楽しむとともに、幼児に慕われる喜びを感じたり、自信をもったりする。

本時のポイント

幼稚園と小学校が同敷地内にあるという環境を活かし、小学校の“休み時間”を活用して、幼稚園の作品展に小学生や小学校の教職員に観に来てもらい、幼児と小学生との自然な交流を目指した。

実践内容

作品展の開催は2日間。休み時間になると、学年問わずたくさん子どもたちが観に来てくれた。ここでは、その中で、5歳児と5年生との交流の姿を紹介する。

5歳児の作品には、ケーキ屋さん、魚釣り屋さん、ピタゴラスイッチ、手作り音楽会を楽しむために作った製作物が展示され、実際に参観者も手にとって遊ぶことができる。5歳児は、自分たちの遊びを一緒に楽しんでくれるお客さんが来てくれることを楽しみにしながら、作品を展示した。

1日目。手作り音楽会に、5年生がお客さんになって来てくれた時のこと。5年生とは運動会でも交流しており、その時の迫力と力強さに、5歳児は憧れをもっている。音楽に合わせて5歳児は演奏をし、5年生は手拍子をして聴いてくれた。1曲目が終わり、司会をしていた5歳児のA児が「次は5年生一緒にしませんか」と誘うと、1人の5年生がステージに上がって来てくれた。音楽会は一層盛り上がり、曲が終わるとたくさんの拍手をもらった。帰り際に、「この楽器、本物みたいやな」などと褒めてもらい、5歳児は満足そうだった。



2日目。5年生が再び来てくれた。昨日ステージに上がった5年生が、今度は手作りの太鼓を持って来てくれたのだ。昨日、休み時間後に学校で作ったそうだ。その太鼓とともに、5歳児の手作り楽器、そして他の5年生も一緒に鈴を鳴らし、みんなで音楽会を楽しんだ。

会場の出入り口に感想コーナーが設置されており、付箋紙に書いて貼れるようになっている。この日、感想には「コンサートが楽しかったよ」「手作りの楽器がすごいね」と書いてくれていた。よく見ると、そこには5歳児も、「来てくれて嬉しかったよ」「ありがとう」と書いて貼られていた。



交流を振り返って

保護者だけではなく、小学生や小学校教師がたくさん観に来てくれた作品展は活気に満ち溢れていた。5歳児の「一緒に楽しみたい」という気持ちを受け止め、楽しんでくれた5年生。認めの言葉は、幼児にとって嬉しさや自信となった。手作りの太鼓をつかって次の日も来てくれた姿からは、5歳児に喜んでほしいと思う5年生の優しさを感じ、お互いの心が通い合っている。

「休み時間」であるため、綿密に打ち合わせをせず、気軽に交流できる良さはもちろんのこと、子どもたち側からの視点で見ても、授業時間とは違ったリラックスしている小学生の姿だからこそ、幼児がより親しみをもって関わることであったのだろう。

これは、これまでの幼小交流が継続され、子どもたちの経験が積み重ねられてきた成果としての姿であり、今後も“互恵性がある”“持続可能な”交流を目指して取り組んでいきたい。